

NEC iStorageシリーズ iStorage NS300Ta

2

セットアップ

本装置お使いになれるまでの手順について説明します。

「設置と接続」(32ページ)

本体の設置にふさわしい場所や背面のコネクタへの接続について説明しています。

「システムのセットアップ」(38ページ)

本製品を使用するための初期設定の方法や、オプションソフトウェアについて説明します。

設置と接続

本体の設置と接続について説明します。

設置

注意

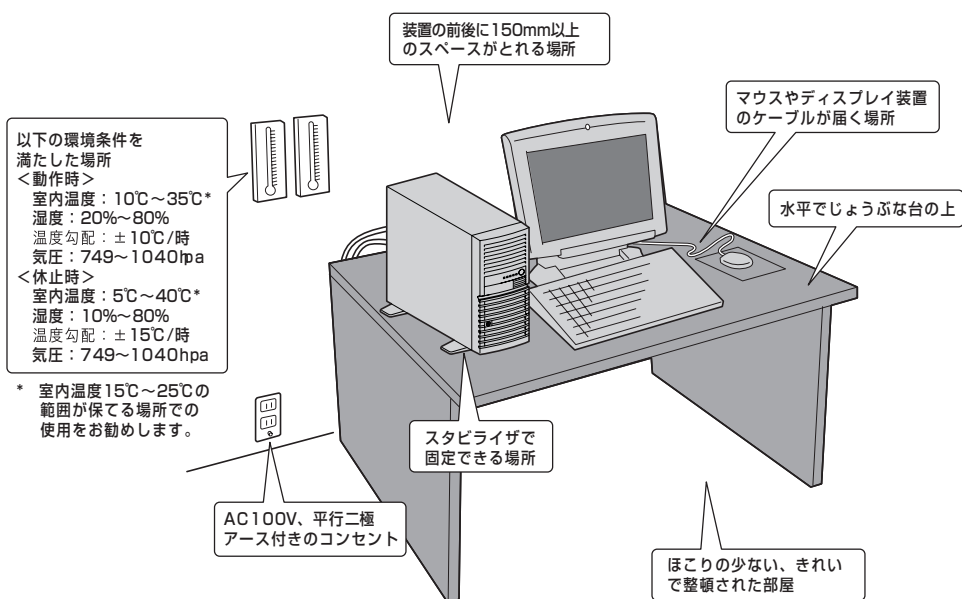


装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 一人で持ち上げない
- 指定以外の場所に設置・保管しない

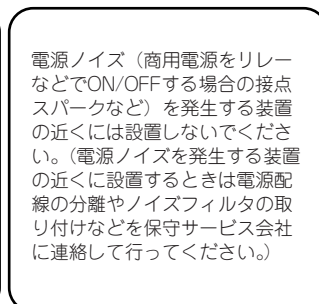
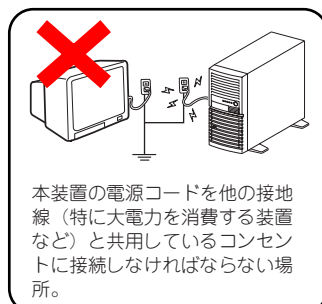
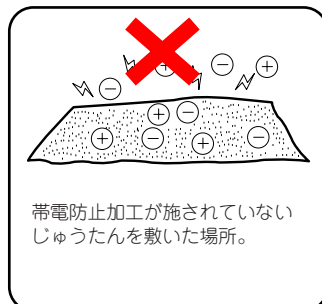
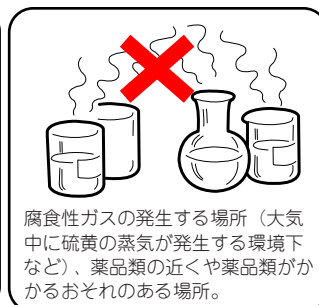
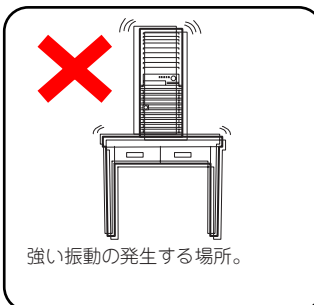
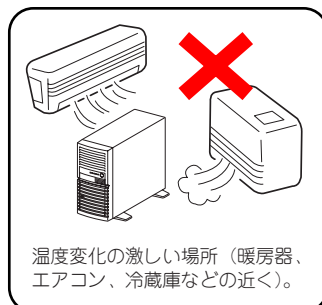
本体の設置にふさわしい場所は次のとおりです。

本体をしっかりと持ち、ゆっくりと静かに設置場所に置いてください。



設置の際は必ずスタビライザーを開いてご使用ください。

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所に本体を設置すると、誤動作の原因となります。



接 続

接続するケーブルは、LANケーブルと添付の電源コードです。それ以外のコネクタには接続する必要はありません。ただし、次の場合は、それぞれのケーブルを接続します。

- オプションのSCSIコントローラを搭載してバックアップファイル機器と接続する場合は、SCSIケーブルを接続します。
- UPS機器と接続する場合は、シリアルポートコネクタにケーブルをシリアルケーブルを接続します（UPS説明書を参照して必要に応じて接続してください）。
- 本装置を直接操作する場合はディスプレイコネクタとキーボードコネクタ、マウスコネクタにそれぞれの機器を接続します（通常の運用では接続しません）。

インタフェースケーブルの接続

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- めれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながらない

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- 電源コードを接続したままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない
- 添付の電源コードを他の装置や用途に使用しない



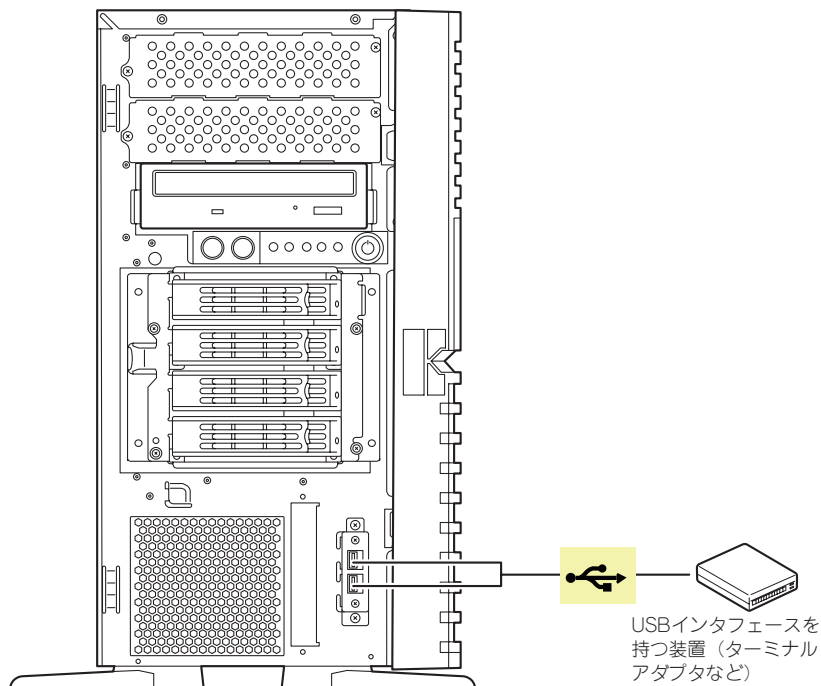
重要

- 初めてのセットアップでは本体標準装備のLANポートにのみ接続して初期セットアップを完了させてください。初期セットアップの完了後、増設したLANポートを使用する場合はLANケーブルを接続後、リモートデスクトップを使用して設定します。

オプションのLANコントローラについても、1枚単位で設定してください。

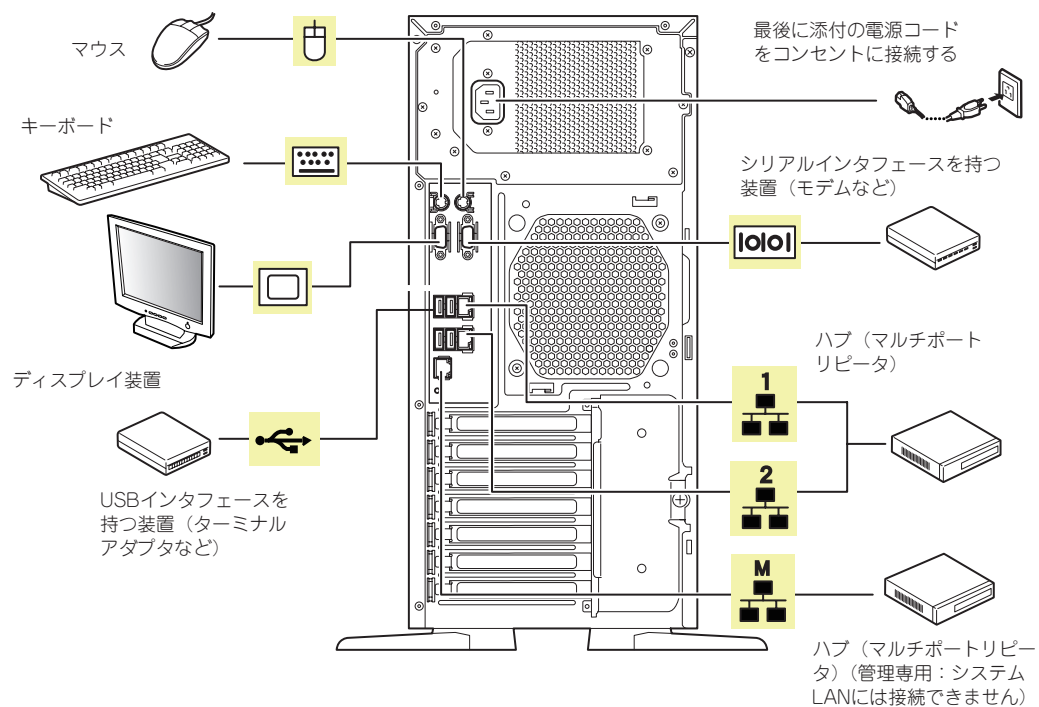
- AFT/ALBを利用したチーミングの設定では、設定の対象となるLANコントローラをまちがえないよう注意してください。
- 本体および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- 弊社以外（サードパーティ）の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本装置で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。
- シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。
- 回線に接続する場合は、認定機関に申請済みのボードを使用してください。
- 電源コードやインタフェースケーブルをケーブルタイでケーブルがからまないよう固定してください。
- 電源コードは装置のACインレット部分で少したるませる程度にフォーミングしてください。装置を引き出したときに電源コードが抜けるのを防ぐためです。
- 電源コードのプラグ部分が圧迫されないようにしてください。

<本体前面>



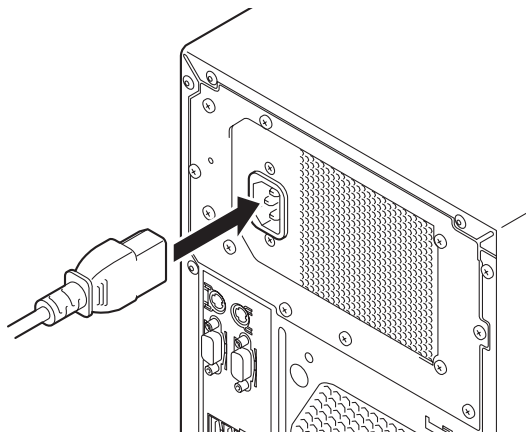
<非冗長電源搭載時（標準）>

<本体背面>



電源コード

添付の電源コードを接続します（図は、非冗長電源搭載時の場合です）。



- 本体の電源コードを無停電電源装置（UPS）に接続する場合は、UPSの背面にある出力コンセントに接続します。
詳しくはUPSに添付の説明書をご覧ください。
- 本体の電源コードを接続したUPSによって、UPSからの電源供給と本体のON/OFFを連動(リンク)させるためにBIOSの設定変更が必要となる場合があります。
BIOSセットアップユーティリティの「Server」－「AC-LINK」を選択し、適切なパラメータ値に変更してください。

システムのセットアップ

システムのセットアップは専用の初期設定ツールを使います。初期設定ツールは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されています。

セットアップの準備

本装置を設定する前に、本体および本体標準装備のLANポートに割り当てる次の情報を準備してください。

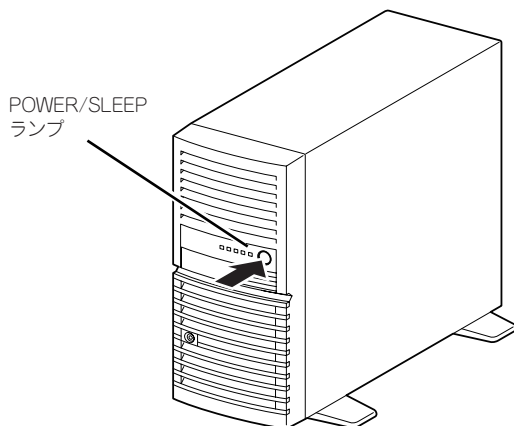
「各部の名称と機能」（11ページ）を参照して、LANポートの位置を確認してください。

- コンピュータ名
- 管理者パスワード
- IPアドレス
- サブネットマスク

電源のON

システムの電源をONにします。

1. 本体の電源コードがコンセントに接続されていること、および本体のLANポートがネットワーク環境として使用するハブに接続されていることを確認する。
2. 本体の電源をONにする。
本体が起動を開始します。



初期設定

管理PC からリモートデスクトップ接続できるようにするために、本装置の初期設定を行います。初期設定ツールの実行は、本装置と同じネットワーク上にある管理PC (Windows 2000+ IE6.0/Windows Server 2003/Windows Server 2003 R2/Windows Server 2008/Windows Server 2008 R2/Windows XP/Windows Vista/Windows 7)と添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用します。



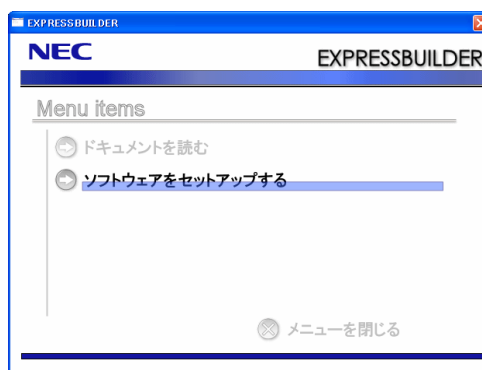
詳細については、初期設定ツールのヘルプを参照してください。初期設定ツールを起動せずにヘルプを参照したい場合は、以下のファイルを開いてください。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROM の ¥NASAP¥iStorageNSsetup.chm

1. 本体の電源をONしたら、管理PCの光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。

オートラン機能によりメニューが自動的に表示されます。表示されない場合は、光ディスクドライブ内の「¥autorun¥dispatcher.exe」を実行してください。

2. 「ソフトウェアをセットアップする」をクリックして、表示されたメニューから「初期設定ツール」をクリックする。

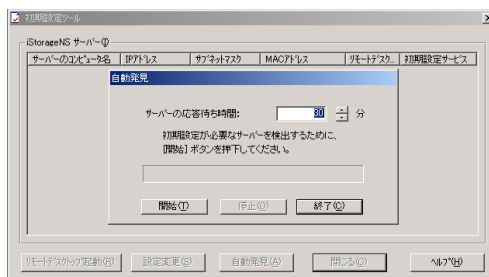


3. 初回のみ「ご確認」の画面が表示されます。装置添付の使用許諾契約書をご一読の上、[OK] をクリックする。

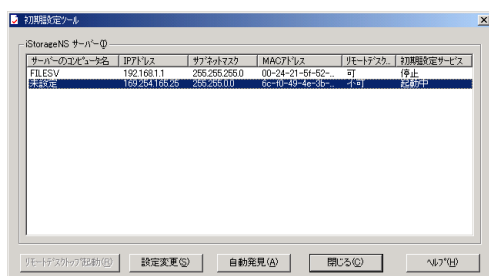


4. 初期設定が必要なサーバーを検出するために、[開始] をクリックする。

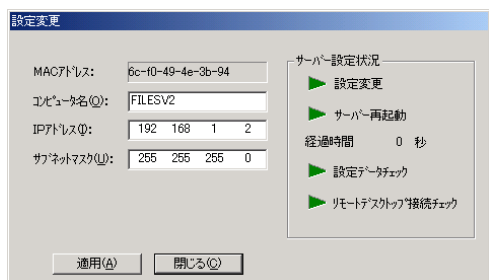
対象となるサーバーが、初期設定ツール画面内の[サーバーのコンピュータ名]欄に"未設定"と表示されます。"未設定"のサーバーが検出されましたら、[停止]をクリックして自動発見を停止後、[終了]をクリックして自動発見を終了させます。なお、対象となるサーバーのOSが起動するまでには、構成によって、20～30分かかる場合があります。30分経っても検出できない場合は、再度[開始]をクリックしてください。



5. "未設定"のサーバーのリモートデスクトップ起動の表示が「確認中」から「可」に変わった場合は、リモートデスクトップによる接続が可能なので、"未設定"のサーバーを選択し、[リモートデスクトップの起動]をクリックしてステップ7に進む。「不可」に変わった場合は、"未設定"のサーバーを選択し、[設定変更]をクリックする。



6. コンピュータ名、IPアドレス、サブネットマスクを入力して [適用] をクリックする。



7. 設定変更を確認するウィンドウが表示されたら、[OK] をクリックする。

サーバー設定の変更が始まり、サーバー設定状況の内容が順次更新されます。

8. 完了メッセージが表示されたら、[OK] をクリックする。

以上で、本装置の初期設定が完了し、リモートデスクトップ接続で管理できる状態になりました。



リモートデスクトップ接続での設定

リモートデスクトップ接続を行い、以下を参照して必要な設定を行います。
設定方法の詳細が必要な場合は、管理者ガイドを参照してください。



リモートデスクトップでの接続方法は、本書の「本装置への接続」(25ページ)を参照してください。

1. リモートデスクトップを起動し、Administratorでログオンする。
2. [スタート] – [Windows セキュリティ] をクリックする。
3. [パスワードの変更] をクリックして、パスワードの変更を行う。



- 本装置のセキュリティを保つために、出荷時のadministratorのパスワードを必ず変更してください。
- パスワードの文字数は6文字以上である必要があります。また、パスワードには、英大文字、英小文字、数字、アルファベット以外の文字の4つの種類のうち3つの種類が使用されていなければなりません。
- パスワードの有効期限は初期設定では42日になっておりますので、お客様のポリシーに合わせて適宜変更してください。

4. 初期構成タスク画面が表示されるので、必要事項を設定する。

- 初期設定ツールで使用したポートを閉鎖
初期設定ツールで使用したポートを閉鎖してください。
- タイムゾーンの設定
日時が自動更新の環境でない場合は設定してください。
- コンピュータ名とドメインの入力
初期設定ツールでコンピュータ名を変更していない場合、ドメインに参加する場合は設定してください。



その他の設定について

初期設定が完了しても、シャドウコピーなどNASの各種機能を使用するための詳細設定や、あらかじめインストールされている管理アプリケーションの固有のセットアップが必要です。管理者ガイドおよびオンラインドキュメントを参照して、必要なセットアップを行ってください。

本装置にインストール済みのアプリケーションは次のとおりです。

- ESMPRO/ServerAgent
- Universal RAID Utility
- エクスプレス通報サービス

すべてのセットアップが完了したら、本装置のシステム情報のバックアップをとります。バックアップはEXPRESSBUILDERを使用します。EXPRESSBUILDERの起動方法やシステム情報のバックアップの手順については、「EXPRESSBUILDER」(64ページ)を参照してください。



重要

オペレーションシステム（OS）を再インストールする場合は210ページを参照してください。

BIOS設定の注意点

通常、BIOSの設定を変更する必要はありませんが、以下の作業の際にはデバイスのブート順の設定を確認してください。

- 内蔵ハードディスクドライブの取り付け/取り外しをしたとき
- EXPRESSBUILDERを起動して管理PCからリモート操作（コンソールレス）するとき

次の手順に従ってBIOSの設定を変更することができます。

1. 5章の「マザーボードのコンフィグレーション」を参照してシステムBIOS SETUPユーティリティを起動する。
2. 「Boot」メニューを選択し、以下の順にデバイスが設定されていることを確認する。
 - (1) [USB CDROM]
 - (2) [IDE CD]
 - (3) [USB FDC]
 - (4) [USB KEY]
 - (5) [IDE HDD]
 - (6) [PCI SCSI]
 - (7) [PCI DEV]
 - (8) [任意]
3. 内容を保存してシステムBIOS SETUPユーティリティを終了する。

以上で完了です。

オプションソフトウェアの追加

本製品にはいくつかのオプションソフトウェアがあります。オプションソフトウェアは工場出荷時にはインストールされていないので、ご使用前にインストールする必要があります。本製品をサポートするオプションソフトウェアについては、販売店などにご確認ください。

各オプションソフトウェアをインストールする場合は、まずは以下の手順で本装置にアクセスします。

1. 管理PCからリモートデスクトップにて本装置へ接続する。
リモートデスクトップ接続については、「本装置への接続」(25ページ)を参照してください。
2. Administrator権限を持つユーザで本装置にログオンする。
3. オプションソフトウェアのCD-ROMを本体の光ディスクドライブにセットする。
4. リモートデスクトップ内でエクスプローラを起動し、CD-ROM内のセットアップ用のプログラムを実行する。

以降のセットアップの手順については、各オプションソフトウェアのマニュアルに従ってください。



オートラン機能でセットアッププログラムが起動するオプションソフトウェアについては、リモートデスクトップ上では自動起動しませんので、インストールディスクの中の「autorun.inf」の中に記載されているセットアッププログラムを実行してください。



オプションソフトウェアをインストールする場合は、各ソフトウェアの必要システム情報を参照してください。